綾川町認知症ともにサポート

明日（tomorrow）もっと　にっこり

綾川町役場健康福祉課

認知症は高齢者に最も多い病気の一つです。厚生労働省の統計によると、認知症の人の数は2012(平成24)年で約462万人にのぼっており、85歳の約半数、95歳以上の約8割を占めると推定されています。また、この数字は2025(平成37)年には認知症の人は約700万人前後になり、65歳以上高齢者に対する割合は、現状の約7人に一人から約5人に一人に上昇する見込みが明らかになっています。

国ではいわゆる団塊の世代が75歳以上となる2025(平成37)年を目指し、認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会を実現するために平成27年1月、新たに「認知症施策推進総合戦略～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～」(新オレンジプラン)を策定しています。

綾川町は、地域包括支援センターを中心に「認知症でもだいじょうぶなまち」を目指して介護予防サポーター、認知症サポーターの養成、また、それらの活動支援、認知症の人の家族の支援を実施してきました。平成25年度からはまちぐるみで高齢者声かけ･見守り「まちかどほっと歓」事業を開始し、支えが必要な人を確実に支えあえるような仕組みづくりに取り組んでいます。また、平成26年度には綾歌地区医師会と共同して認知症医療連携体制を整えることができました。

綾川町社会福祉協議会では「まちかどほっと歓」事業に呼応した形で「つながるんジャー」を組織し、社協の職員がそれぞれ地域を担当し、きめ細かく対応できる体制が生まれています。県全体でも全国に先駆けて県社協を中心に香川おもいやりネットワーク事業を展開しており、さまざまな立場からのネットワークが紡ぎ出されています。

住み慣れた綾川町で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療、介護、福祉の専門職、地域の人々のつながりを育みながら、認知症の人をともに支える綾川町ならではの仕組みづくりを力と心を合わせて進めていきましょう。

綾川町認知症ケアパス

認知症ケアパスとは認知症になっても安心して住み慣れた地域で暮らしていくための道筋を示したものです。

綾川町認知症ケアパスは「認知症になっても楽しく豊かに安心して」を合言葉に作成されています。認知症になると、ともすれば自信をなくし閉じこもったり、イライラして不安をぶつけたりしてだんだん人から遠ざかってしまうというイメージはありませんか？また、ご家族も誰にも相談できずに実はとても悩んだり、困ったりしているということも少なくないのではないでしょうか？

認知症の人の状態は、適切な医療と周囲の人の支援のしかたによって大きく変わります。周囲の適切な支援があると、認知症になってもその人らしく安心して暮らし続けやすいといわれています。

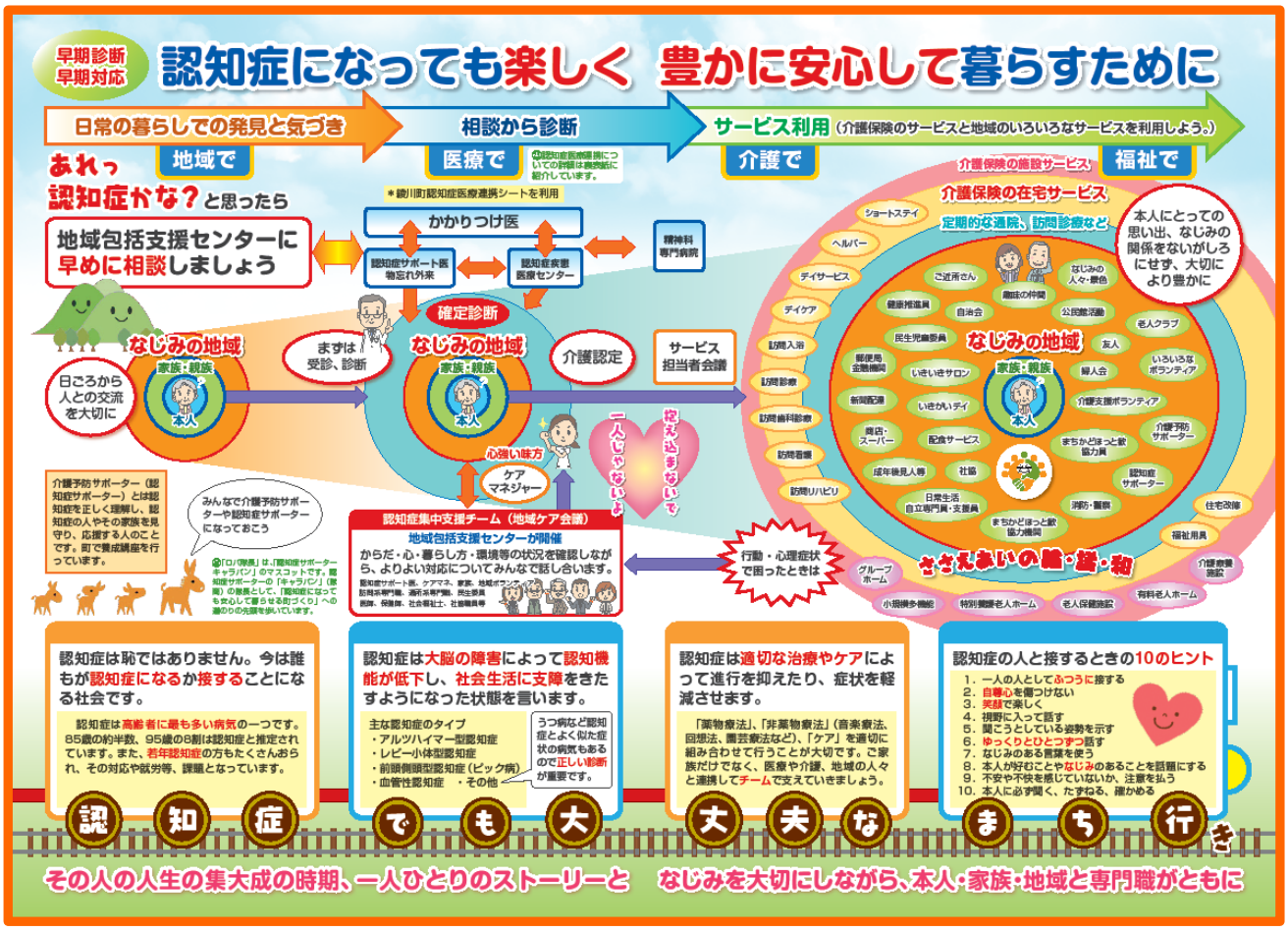
なじみの場所、家族、友人、景色などかけがえのない大切な人や物などがとても安心感をもたらすこともわかっています。本ケアパスでは、人生を列車旅行に喩え、「認知症でもだいじょうぶ駅」をめざす列車に乗って、町中で支え合いながら、人生の集大成ともいえる大切な時期を認知症になってもその人らしく尊厳を持って暮らしてして行こうということを示しています。

内容は表紙→概念図→ささえあい資源マップ→早期診断・早期対応のための認知症ケア医療連携フロー等となっています。

1． 表紙

認知症ケアパスとは何か、また、地域でのつながり（ネットワーク）が認知症ケアにおいてとても大切なことから、そのことを地域包括支援センターが応援することを表現しています。

2．認知症ケアパス概念図



左から①「日常の暮らしでの発見と気づき」、②「相談から診断」、③「サービス利用」という流れになっています。

① 日常の暮らしでの気づき

日ごろからの周囲の人との交流を大切にし、また、認知症サポーターや介護予防サポーターになっておくことにより、誰もが認知症を正しく理解し、認知症の人やその家族を見守り支援することができるよう心がけておくことが大切です。

② 相談から診断

認知症かな？と思ったら、まずは相談、受診、診断が大切です。認知症の正しい診断はこれからの治療方針や関わり方の決め手となることがあり、その人のこれからの人生をも左右することがあるので非常に重要です。綾川町では地区医師会と共同でかかりつけ医と認知症サポート医が双方向で情報がやり取りできる「綾川町認知症医療連携シート」を作成し、町内関係医療機関すべてが利用できるように体制を整えています。これは少しでも早期に安心して相談や受診ができるようにするためのものです。それでも、認知症の場合、なかなか受診につながりにくいことがありますが、なじみの関係があることでうまく受診につながることがあります。そして、必要に応じて介護認定を受け、ケアマネジャー(介護支援専門員)を決めておくと、とても心強い味方となってくれます。

③ サービス利用

これまでの認知症ケアは介護認定を受けると介護保険のサービスを使い始めたものの地域とのつながりが途切れがちでしたが、そうするとどうしても周囲の理解や支援につながりにくく、徘徊などの行動・心理症状が現れやすくなってしまいます。そしてますます周囲の人が放れることがあります。しかし、これからの認知症ケアは医療、介護の専門家と地域の支援、家族がご本人の視点に立って力を合わせて支えあっていくことがその人らしく安心して暮らし続ける可能性が広がるといわれています。本ケアパス概念図の右の同心円状の図はそのことを表しています。ご本人の視点を忘れていないか？ご家族が介護の負担を抱え込んでいないか？地域から孤立していないか？医療や介護の専門的な支援は満たされているのか？そのときのケアの状況を確認したり、見直すときのヒント探しに使えます。

地域の理解、支援、つながりがうまく実を結んだ形として高度認知症と診断された方も、自宅で穏やかに過ごしている事例が町内にたくさん生まれています。ご本人が置き去りにされていないか？家族ばかりが負担を背負っていないか？みんなで自分事として考え、ちょっとできることを見つけて少しずつ実行してみましょう。

リーフレットの中でオレンジリングをしている人は何人いるかな？
町中で認知症サポーターになろう。

認知症supporter caravan

3． 高齢者ささえあいマップ

中央のハートを開くと、ささえあい資源マップが現れます。左は介護保険外のいきいきサロンなどの情報、右は町内の介護保険事業所、病院、医院、歯科医院、調剤薬局の情報が掲載されています。また、下部の列車からは認知症ケアのヒントになる専門職や地域の人々の声が聞こえています。

認知症になっても生きがいを持って生活できるんだなあ。

笑顔で接することで、症状の改善がみられるよ。

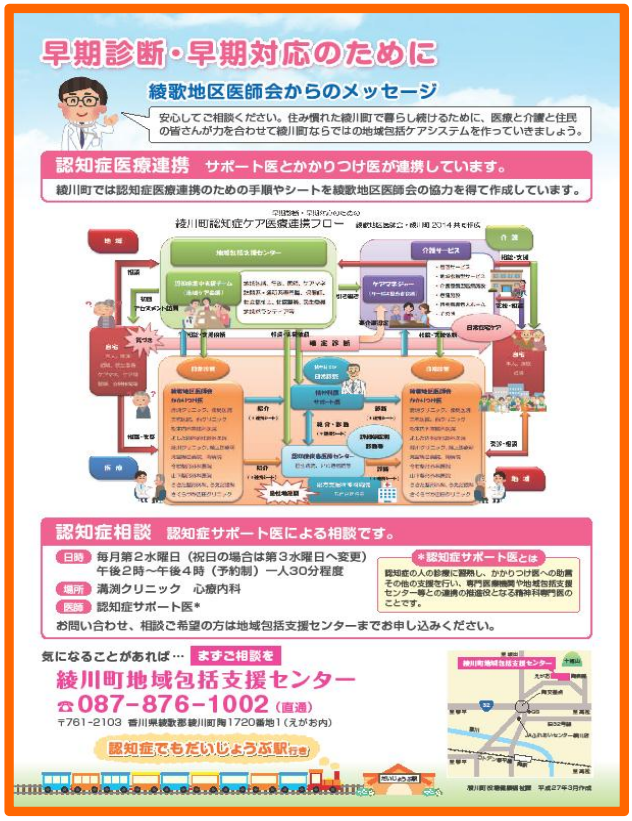
居場所（を作る）（ができる）（がある）が大事だ。

介護記録、情報共有方法等を検討して認知症外来と連携したよ。

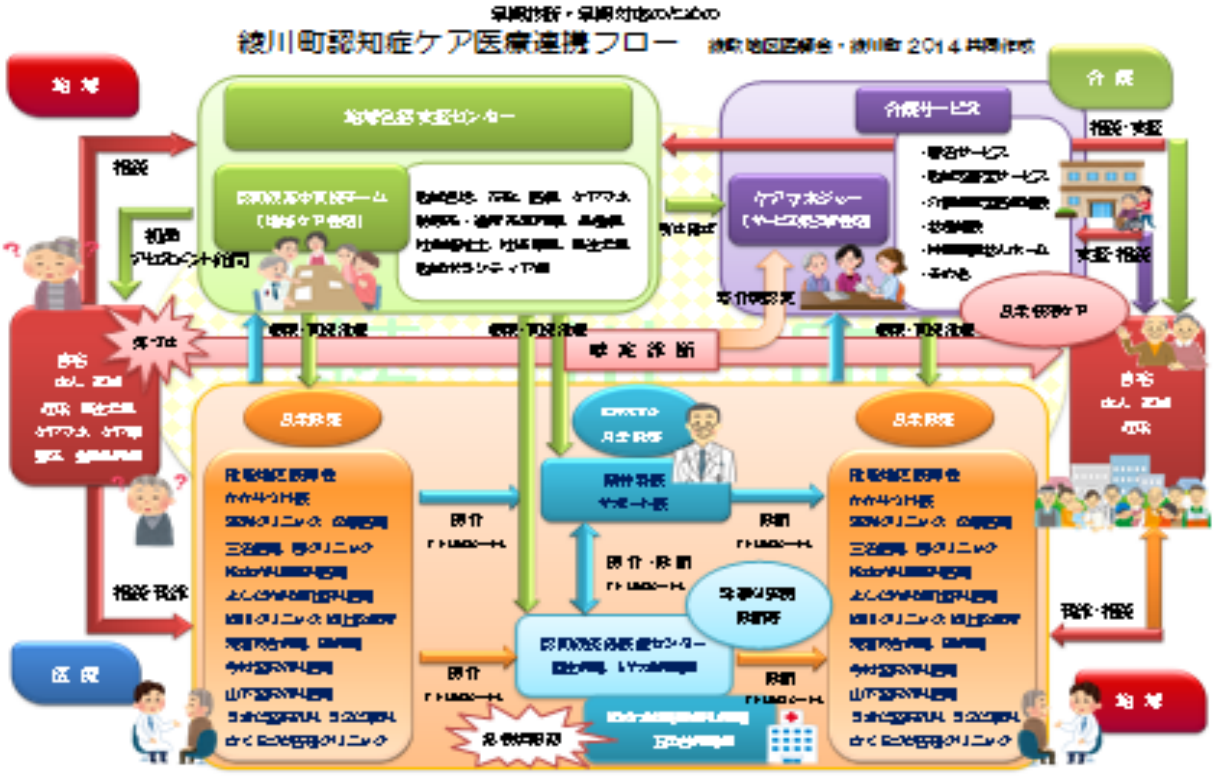
発症しても社会と関わったり、趣味を楽しんだりできるんだね。

ご本人の言動、行動を否定せず、受け入れている態度で接するとうまくいったよ。

４． 早期診断・早期対応のために



綾歌地区医師会からの心強いメッセージとともに平成 26 年度に地区医師会長自ら中心となり、試行錯誤しながら作成した綾川町認知症医療連携フローを掲載しています。町内のかかりつけの先生と認知症サポート医が連携して早期診断・対応のための起点としての役割が期待されています。平成 27 年 1 月からは認知症サポート医による認知症相談が実施されて毎月多くの相談が寄せられています。



＊認知症相談＊

1．日時：毎月第2水曜日(祝日の場合は第3水曜日へ変更)
　　午後2時～午後4時（予約制）一人30分程度
2．場所：溝渕クリニック　心療内科
3．医師：認知症サポート医
4．お問い合わせ、相談ご希望の方は
　　地域包括支援センター　までお申し込みください。

＊綾川町認知症ケアパスは
　　綾川町のホームページおよび
　　かがわの認知症　高齢者支援サイト
　　http://www.pref.kagawa.lg.jp/choju/support/madoguti/index.html
　　に掲載されています。お問い合わせは綾川町地域包括支援センター087－876-1002 まで